

〈翻訳〉

15世紀イングランドにおける 女性のための衛生書⁽¹⁾ (I)

末 広 菜穂子

[f.194r] 数多くさまざまな病気——その中にはほとんど命にかかわるものもある——を持つ大勢の女性があり、彼女達は男性にその悩みを打ち明けたり、話したりするのを恥ずかしくも思っているので、神の喜ばれることとすべての女性の助けとなることを正しく書くために私に恩寵をお与えになった恵み深き神に祈りを捧げながら、私は女性の病気の治療法について少し書いておこうと思う。なぜなら、慈愛がこれを必要とするからである：誰でも、彼が神から受け取っている恵みに従って、兄弟姉妹を助けるために働くべきである。そして、私が述べたように、女性には男性が知るより以上のさまざまな病気やもっと恐ろしい病気があるが、彼女達は女性を肉体的喜びやよこしまな喜びのためにしか愛さない無礼な男達に先々非難されたり、身をさらすことを恐れて恥ずかしく思っている。そして、もし女性が病気であると、そうした男達は彼女らを軽蔑し、この世に男が女を連れてくる以前に女がどれだけの病気を持っているかに気づかない。

(1) これは、British Library におさめられた15世紀初期のものと同定される写本《MANUSCRIPT, SLOANE 2463》の邦訳である。テキストとして、この写本の対訳と解説を行った Rowland, Beryl, *Medieval Woman's Guide to Health, The First English Gynecological Handbook*, Croom Helm London, 1981, を用いた。この写本原本の著者については、性別、職業は不明であるが、B. Rowland は、女性により書かれた可能性が高いことを示唆している。写本は、[f.194r] から [f.232v] まで計三十九葉にわたっている。

それで、私は女性を助けるために、彼女達の秘密の病気を助ける方法を書くことにする。そうすれば、ある女性が病気の別の女性を助けることができるかもしれないし、そんな無礼な男達に秘密を漏らさなくてもよくなるかもしれない。

しかし、それにもかかわらず、神の命により得た病気を理由に女性を傷つけるような男は、誰であれ大きな罪を犯しているのである；彼は、女性だけでなく、彼女のためにそうした病気を与えた神をも軽侮していることになるからである。だから誰も神が与えた病気を理由に他の者を軽蔑すべきでなく、同情心を持ち、できるならば助けてやるべきである。

[f.194v] 従って、女性が男性に比べ体の熱が少なく、水分と体液を乾かす熱が不足しているため、より多く水分を持っていることを理解しなければならない。それにもかかわらず彼女達は出血するが、それは体をきれいにし、健康にするのである。そしてそうした清め (purgations; purgacions: すなわち月経を意味する)⁽²⁾ は12歳から50歳までである。とはいえ、体液の組み合わせ (complexion: 冷・温・乾・湿の四性質、または四体液の組み合わせ。この結合の割合によって動植物体に種々の様相の差異が生じると考えられた。この組み合わせの結果である体質、気質、性質も指す)の度合いが高く、熱い食べ物と飲物で栄養をとり、安楽に暮らしているために、より長い期間清めの続く女性もいる。そして、妊娠しておらず、あるいは体液が乾いたり働き過ぎでなければ、女性にはこの清めが毎月一度ある。子宮 (womb; wombe) の中の子供が代わりに血から栄養をとるために、子供を授かったときから子供が産まれるまでの時期、女性にはこの清めはない。そしてもしこの時期に清めがあったとしたら、それは母親の子宮の中で子供が血を拒み、病気であるか死亡しているしるしである。体

(2) 括弧内の原語表記については、purgations が現代語表記、purgacions が写本原本表記である。原語を一つしか併記していないときは、現代語表記と写本表記が同一の場合である。以下、この表記方法に従う。括弧内のその他の記述は訳注である。

液の組み合わせの度合いが高く、裕福で安楽に暮らしている女性には、この清めが一月に一度以上ある。そして、清めの時に女性の体から流れる血は、「母 (mother; moder)」と呼ばれる子宮 (uterus; marice) にある血管から来るもので、そこに正しく宿っている子供に栄養を与えるのである。

「母」は母親の子宮の中で子供が包まれる薄い膜のことである。そして女性の病気の多くは、我々が母胎 (marice) と呼ぶこの「母」の病気から由来する。

第一の病気は、先に述べたように、清めの時にあるはずの、浄化されるべき血 [f.195r] が止まることに関係している。

第二の病気は、出血が過剰であり、おかしな時にあることに関係している。

第三の病気は、子宮の窒息 (suffocation; suffocacion) である。

第四の病気は、子宮の下降 (precipitation; precipitacion) である。

第五の病気は、子宮が内側から傷ついたときに起こる。

第六の病気は、子宮に炎症がある場合である。

第七の病気は、子宮の腫れである。

第八の病気は、出産時の苦痛と出産の前に女性が経験するひどい痛みに関係している。

第九の病気は、体の下部で子宮から排出されるものである。

第十の病気は、後産のないこと、そして子宮の痛みである。

{第一章は、女性の清めの際に浄化されるべき血液の閉止にかかわる。}

適切な時期に清めができなくなる出血の閉止はさまざまな形で、そしてさまざまな理由で起こる。子宮の熱や冷え、あるいは子宮の内側に含まれている体液の熱や冷え、または、四体液の過剰乾燥、寝不足、悩みすぎ、あまりに怒ったり、悲しんだり、食べ物をとるのが少なすぎても起こる。この病気のしるしと全般的徴候は次のようなものである：身体的不快感を伴う肉体的・精神的苦痛、およびへそから秘所 (privy member; prevy membre) にかけての圧迫感。そして、腎臓、背骨、額、首、目の痛み、

[f.195v] 尿(waters; bries)の感染、すなわち変色。また、胃の入り口付近の重苦しさ、肩胛骨の前後両方の痛み、腿、腰、手足のだるさ。そしてそうした女性は時に彼女達に適さない食物、たとえば炭、木や果物の皮、貝殻などに対する理由のつかない食欲を有し、顔色は悪く、青ざめてくる。また、この時期には女性は時に男性との交わりの欲求を持つことがあり、実際交わりを持つと、癩病あるいは何か他の悪い病気を持った子供を産むことになる。しかもこの出血の閉止が長くなると、女性は水腫症や痔疾になる場合もある；あるいは心臓や肺を冒し、心臓病を起こす。そして時には心臓を余りにおびやかした結果、まるで癩癩にかかったかのように気絶して倒れる女性もいる。彼女達は死んだ如くに一日か二日、病気のため横になっている。頭が非常に混乱してめまいを起こし、すべてのことをめちやくちゃにして考える者もいる。そしてもしこの閉止が子宮の中の血液の病気であるとすれば——その結果、血液がしかるべく規則的に流れないのならば、その時の女性の尿は血液と同じように赤くなる。そして、女性が清めのあるときにその血液が黒ずんでいれば、静脈は血液で満たされており、彼女の尿、すなわち血液の変化したものの色は、その場合明るい赤になる。

しかし、もしこの閉止が別の体液、すなわち熱く乾いた [f.196r] 胆汁とよばれるものからきたとすると、その場合女性は体内の熱が燃え、ひりひりするのを感じ、尿は色が濃く、油っぽくなる；そして清めの時に彼女達が出血する三、四日の間、厠に行くと炭のような有害な物質を排泄し、尿は暗赤色になる。そしてもしこの閉止が粘液と呼ばれる冷たく湿った体液によるものだと、尿は油っぽく色あせ、清めの間、厠に行くと白くてどろりとした粘液質の物体を排泄し、尿は微かに色がありわずかに臭いがする。しかし、もし閉止が、静脈の中にあり、黒胆汁と呼ばれる冷たく乾いた体液によるものであるとすると、女性は下腹部に大きな圧迫感を感じ、尿は色あせ、水っぽく、小さな結砂を中に含み、灰色のこともあり、小さな黒い斑や汚れで黒く油っぽいこともある。そして、清めの期間は、排泄

するにしてもそれはきわめて少量である。絶えず閉止のある女性の場合、彼女達の尿は炭のように黒い小さなものが混ざっている。時にはそれは白く、濃く、ミルクのように不透明である；白く水っぽい場合もあり、白いうるこ状のものが尿の中に入っている。小さな黒いものが尿と混ざっていることもある。

子宮のくぼみにある血管の外側には、腐敗した子宮の体液があり、それは清めの時期の女性の妨げとなる。そして、子宮の中で発生する体液には、粘液、胆汁、黒胆汁の三つの体液がある。粘液の徴候は次のようなものである。女性は湿り気をより多く感じ、男性との交わりを望まない。そして重圧感と冷気を (f.196v) へその下部から感じ、清めの時期には血液と粘液を排泄する。そして尿は白色か、きわめて白色っぽい色である。そしてもしそうした体液がガス (wind; wynd) になると、これは心臓や肺にまで上っていき心臓発作を引き起こす。また、子宮の中に黒胆汁が多くあると、女性は男性との交わりをほとんど望まなくなり、交わりを持っても、ほとんど何も生じない(快感がない、あるいは子供ができないの意味か?) し、へその下部から冷たさと重苦しさを多く感じる。そして、女性はまるで子宮の中で冷たいガスが動いているかのように感じ、清めの時には、わずかしき量が出ないが、それは暗黄色の黒胆汁と混ざったものである。そして子宮の入り口、すなわち秘所は感覚を失い、女性がたとえ男性と交わりを持っても、ほとんど感覚も快樂もない。そして尿は暗黄色で脂っぽいこともあり、薄くて色がほとんどないこともある。もし子宮に胆汁が多いと、内部に熱や痛み、うずき、耐えがたさを感じる。そのような女性は、子宮口のあたりに火照りを感じ、男性と交わりを持ちたくてたまらなくなり、その後、直ちに出血するが、量はわずかである。清めの時期には、出血があれば、それはきわめて少量で暗赤色である。

治療：このような病気にある女性を助けるには、種々の療法がある。たとえば、清められ得ない血を除くために他の場所で行う瀉血であるが、これは患者が心臓病や水腫症の場合に役立つ。そして有益な瀉血は親指を通る

静脈で行い、[f.197r] ふくらはぎの下のところで足の前部、後部両方で切開し、乳首の下と背中の中腎臓の下あたりのところに吸い玉をあてて放血する。入浴もまた有益であり、薬草を入れたものは、子宮の血管を開き、血液をより早く放出できる。そしてもし、月のものの途絶えが胆汁、すなわち熱く乾いた体液のせいであるなら、季節の薬草を入れた熱い風呂にはいると緩下する。その薬草は、たとえばエゾデンダ（シダ植物、根茎を下痢、腰痛の薬用に使う）、ゲッケイジュの葉、キヅタ（イングランドでは酔いを防ぐとされる）、サビナビャクシン（ヒノキ科）、アカネ、オレガノ、ローズマリー、クミン、アスフォデル（南ヨーロッパ産ユリ科ツルボラン属）、ウイキョウ、ヨモギ（*artemisia*; *mogwede*: アルテミスの聖草として知られ、婦人病に利用される）、カラミント（シソ科ハッカ類植物）、ヤナギハッカ、野生のタイム、イヌハッカや他の薬草があり、よく煮て熱したこれらの薬草の上に穴のあいた腰掛けをおいて、その上に患者を座らせる。そしてその後、ヨモギとエゾデンダを煮出したブドウ酒を一口飲ませると、時には不幸せな気分、時には怒りっぽく、時にはとても陽気にさせる。そして、ニンニクやコショウ、カラシ、コショウソウ、その他そうした辛いびりとした薬味を用いさせ、いま述べたばかりの薬草で立てた風呂にはいらせる。そしてたくさん歩かせ、よく働かせ、食べさせ、飲ませると、彼女は容易に血液を放出する。そして、女性が清めを持つ月の頃に、もしそれがなければ、一日目に親指のところからかなりの量の瀉血をし、次の日はもう一方の親指から瀉血をする。そして、毎週一度は、私が先に述べた薬草風呂に女性が入ることを習慣づければ、病気が長く続いたとしても、彼女は助かるであろう。しかし、もし病気が冷たい体液のせいであれば、彼女の悩みが簡単に彼女から去ることをより容易にするために、まず次の薬を彼女に与えなさい。

ウイキョウ [f.197v] の根、パセリ、野生のニンジン、セロリ、これらの葉ではなくて根を、そして、ヨモギ、サビナビャクシン、カラミント、オレガノの葉を——これらが全部なければ、あるものを——取って、よく

煮えるように酢で調理する；それらを混ぜたものをきれいにし、酢に半量の蜂蜜を合わせたものの中に入れ、しばらく火の上にかけて煮立たせ、そして冷めたら、ハツカダイコンとアカネを入れて煮た水と混ぜて二、三日用いさせる。

そしてその後、私が前に言及した薬草の中に体をつけ、入浴させる。混合したものを調理して、サビナビヤクシン、ヨモギ、アカネを煮出したブドウ酒を一口飲ませ、そのブドウ酒をエゾデンダを煮出した水と混ぜる。そしてもし清めない女性がいれば、私がすでに述べたように、かなりの量の血を放血させることができる。座薬 (sappositories: タンポン状のもの) は、これらの病気に役立つ薬である。そして、座薬は男性が胃を洗浄するために肛門にそれを入れるのと同じように、女性の秘所に入れなければならない。しかしこうした女性のための座薬は、完全に子宮の中に引き込んだ場合には、腿の一方の回りに結んだ糸でしっかり留めておかなければならない。こうした座薬を、清めのある月のその時期の四、五日前に、それをより楽にするために使うのはよいことである。座薬の一つは次のようなものである：トライアクル・ディアテッセロン (triacle diatesseron: 四種の材料でできた薬剤) を半ドラクマ (ドラクマ=現在のドラム=8分の1薬用オンス)、ムギセンノウの粉を同量とミルラ (没薬樹) を取って、サビナビヤクシンかヘンルーダをそこへ入れて、腐らせた雄牛の胆汁と一緒にして砕く。それから、混ぜたものを木綿で覆い、小指ぐらいの大きさに座薬を作って秘所に入れる。[f.198r] しかし、まず清潔な蜂蜜とオイルを混ぜたものを塗って、スカモニア (セイヨウヒルガオ属、下剤に用いる) の粉をそこに振りかけてから秘所に入れるのである。同じことをルピナスの根でやってもよく、その方がずっといい。別の座薬もある：全体が緑色の野生のセロリの根——指の大きさの——を取って、スペイン・ピレトリウム (アルジェリア産のキク科植物。根茎を局部刺激剤に使う) の根とともに塗る。その後、その根を再び二週間から三週間土に差し、取り出してきれいに拭き、一昼夜秘所に入れる；その後取り出して、ゲッケイジ

ユのオイルか適当なオイルを塗り、再び秘所に入れ、清めがあるまでそのままにしておく。たとえ子宮内に死んだ胎児がいたとしても、こうすれば排出される。そして、黄色いアイリスの根も同じ効能があり、同じ方法で準備するなら、ブドウの根もよく効く。しかし、この座薬を与える前に、サビナビヤクシン、ハリエニシダ、ペニロイアルハッカ、ゲッケイジュの葉を湯に入れて煮出し、その後、患者を湯の中にかかなりの時間座らせて、できるだけ秘所の内部の届く範囲までかなり長い時間洗わせる；そして、布で拭いて上記の野生のセロリ、またはドンダリの座薬を入れる。

別の座薬：ムギセンノウの粉を取って蜂蜜、綿と混ぜ、座薬を作る。

もう一つの座薬：3ドラクマのスペイン・ピレトリウムと同量の小さなピレトリウム、1ドラクマのムギセンノウの粉、7ドラクマのスカモニアを取る。これらをすべて、指が入るくらいの小さな麻の袋に入れ、簡単にまた引き出せるような範囲で、それをできる限り奥の方へ入れさせる。なぜなら、これで患者に直ちに清めを起こさせることとなるからである。もし、座薬のために子宮がひりひりと痛むようならば、[f.198v] バラのオイルかスマレのオイルか適当なオイル、または新鮮な無塩のバターを塗らせる。飲み薬なら、清めを起こさせたり、胎内にいる死んだ胎児を墮胎させる高価なバルサム液、ヤナギハッカ、クレタ島産ハッカの汁、粉末または液状にしたリーク、オランダカラシ、およびその種などの他の薬もある。しかし、もしこの病気が怒りや悲しみのせいであったなら、患者の気を引き立て、元気づけるような食べ物や飲物を与えて、時々入浴させるように習慣づけさせる。そして、絶食や睡眠不足のせいなら、新鮮な血を得られるような良い食べ物や飲物を食べるよう気をつけて、楽しく過ごし、幸せになるようにし、憂鬱に考えるのをやめさせなさい。

この病気に対するすぐれた医学的な強壯剤は、テオドリコン・エンピリコン (theodoricon empiricon: よく用いられる下剤)、テオドリコン・アナカルディスム (theodoricon anacardinum: 風邪による頭痛のための解毒剤)、トライフェラ (trifera: プラムから作られた穏やかな下剤で胃に

よい)、マグナ (magna)、パンクリストウム (panchristum: クワの実から作られる)、ダイアスペルマトン (diaspermaton) がすべての中で最も良い。また、子宮から腐敗した血液を排出するのにきわめて効果的な良いシロップがあり、これは貴婦人、尼僧、その他の繊細な女性のためのものである。小さなアカネの根、ナギイカダ (ユリ科植物)、アスパラガス、カヤツリグサをそれぞれ2分の1メジャー (measure; quartern: 特定の重さの4分の1)、ヨモギ、サビナビヤクシン、イヌハッカ、カノコソウ (オミナエシ科)、カラミント、タイムをひとつかみずつ、バルサム of 薬草をふたつかみ、ヤマヤナギ (mountain willow; sermontayne) の種を1オンス、混合した甘松香を半オンス、カンゾウ、干しブドウの内果肉、ローズマリーの花と緑の葉、アラビア産スティカドス (sticados) の花を1ドラクマ、きれいな蜂蜜を半ポンド、砂糖 (円錐型白砂糖) 3メジャーを取る; $1\frac{1}{2}$ ポンドの澄んだシロップを作り、これを女性に2オンスずつ与えるか、赤いエジプト豆のシチューを2オンス与えるかする。あるいは、それに4ポンドの上質のクラレット (フランス、ボルドー産赤ブドウ酒) 加上質の香料を加えてシロップに入れ、[f.199r] 中身をよく混ぜて、それをいつも毎回6オンス与える。そして、スープの中に2オンスのベネディクタ (benedicta; benedicté: さまざまな薬に用いられるシロップ・蜂蜜などを使ったねり薬) を入れる。スープは次のようにして作る: ウィキョウの葉、ダイコンソウ (バラ科)、ルリヂサ、スマレ、クレソン、ホース・パセリ (horse-parsley; stanmarche)、ヤナギハッカ、キダチハッカ、セイヨウヤマアイ (トウダイグサ科)、ゼニアオイ、チャーヴィルをそれぞれ2オンスずつ取って、スープを作り、この薬草を料理したもの一人前を1ドラクマのベネディクタとともに食べさせ、残りを1ドラクマのベネディクタとともにさらに料理すれば十分である。そしてもしこのシロップとともに完全に作ったものをたっぷり一口飲ませれば、子宮も体も簡単に浄化されるだろう; そして苦痛を避けるために、寒さも隙間風も来ない部屋の中でこれを行いなさい。そして、女性が出血閉止の苦痛を抑え、子宮の作用

をやわらげるために入浴する時に、その上に座るクッションの作り方をここに書いておく。ヨモギ、キダチハッカをふたつかみずつ、アメリカボウフウの葉、コストマリー（キク科。強い芳香がある）の葉、ゼニアオイ、ウスベニタチアオイ、亜麻仁、コロハ（マメ科。種子を香辛料として用いる）、ネナシカズラ（flax dodder; doder）、麻の実、ラヴェンダー、ヤマヤナギの種を2ドラクマずつ、パセリの種、ウイキョウの実、アニス、ディール、ハシバミの実、野生ニンジンがそれぞれ半ドラクマ、カミルレの花、ニワトコ（万能薬として用いられる）の花、ローズマリー、両方の種類のスティカドスを2ドラクマ取って、すり鉢の中で全部をよくかき混ぜ、小さな袋——幅も長さも1スパン——に入れる：この袋がいっぱいになると、風呂に入れてその上に女性を座らせる。そして風呂から出るとき、ジャコウオイルを塗る。これについては後に窒息に関する章で述べる。そして、ヨモギを煮出したワインに入れたエマゴーク（hemagogue）のねり薬を2ドラクマ、あるいは芯入りのパンクリストウムを飲ませて、心地よく整えられたベッドに寝かせる。そして刺激性の座薬を与える。ヤナギハッカの根、[f.199v] アイリス、サビナビヤクシン、ヘンルーダ、キダチハッカを4ドラクマずつ、クレタ島産ハッカ、イヌハッカ、ウイキョウの実、ドクゼリモドキの種を2ドラクマずつ、ガスコーニュの白ワインを $1\frac{1}{2}$ ポンド、1ポンドの清潔な流水、7スクルーブル（=20グレイン）のミルラを取る；種を砕き、薬草やミルラをきわめて小さくすりつぶし、しばらくの間煮て、冷たくなるまで置いておく；朝までに一度に飲めるぐらいの量を漉す。また、他の薬や膏薬と並んで、奇胎（mola matricis）の章で述べる子供の分娩のために、丸薬とともにそれを与える。そして、この薬は、女性の子宮内にいるのであれば、死んでいようが生きていようが直ちに子供を体から出す。そしてこの緩和剤としての膏薬は、もし女性の外陰部に塗れば、死んだ子供を排出するだけでなく、そこに生じた他の生物をも体外に出す。胃のあたりに塗れば、吐瀉させることができる。子宮のところに塗れば、厠に行かせることとなる。2ドラクマのねり薬、4ドラク

マの黒いクリスマスローズの根、3ドラクマのレタス、シクラメンの内側部分、コロシントウリの汁、トウダイグサをそれぞれ6オンス、ゲッケイジュの種を2オンス、テレピンノキの樹脂を4オンス、十分な蜂蜜を取る。しかし実を言うと私は、女性を出産させるときには蜂蜜の代わりにこの薬に半ポンドの楓子香を加える。そしてもし緩下剤を作りたいときには、かなりの量の雄牛の胆汁とともに新鮮な五月に作られたバターをそれに加える。

{第二章は、不適切な時期での過剰出血に関わる。そしてこの病気は多くの女性を弱くしている。}

陰部の過剰出血は多くの方法で起こる：すなわち、女性の体内にある血液の大量なこと；血管を力で破壊してしまうような血液の荒々しさ (fierceness; kenesses)；血管の小さな穴 [f.200r] からしみ出し、流れ出してしまうような血液の希薄さ；あるいは未消化で、水のように腰がなく希薄な血液；体内に血液を保持しておくことのできないような女性の虚弱さ；そして秘所、あるいはその周辺のどこかの血管の破れによって起こる。

もし、出血が第一の原因で起これば、出血し、秘所に熱っぽさとうずきを感じ、出血は少量で、すぐに流れ出てしまう；あるいは、血液は黒色またはサフランや炎の色のような黄色である。そして時には、粘着性の物が互いに、そして下唇にこびり付き、乳首の周りに、ひりひり、ずきずき、ちくちくした痛みを感じる。そしてもし出血が第三の原因から起これば、血液は静かに、少しずつ流れ、希薄で透きとおっている。そしてもし出血が熱によるものであれば、体内に熱を見い出すだろうし、熱の他の徴候を体内と体外に見い出すだろう。そして出血が第四の原因で起これば、血液は水のように希薄であり、胃と子宮の両方に消化不良を覚え、子宮の中でガスがごろごろと音をたてて鳴るのを感じる。そしてもし出血が第五の原因で起これば、女性の体の弱り加減によってこれがわかる；体から流れる血液は僅かで途切れることがないが、苦痛は伴わない。そしてもし第六の

原因であれば、出血は絶えず見られ、苦痛が伴い、時には自然の血の色をしており、時には色は無色だが、膿のように損なわれた形のこともある。そして、病気がどこから由来したものであろうと、どんな原因であらうと、男性であらうと女性であらうと、これによってさらに体が弱くならない限り、血液や体液の流出をすぐに止めることはできない [f.200v] ; 従ってできる限り速やかに流出を止めることができるだけで、それ以上のことはできない。

治療：そしてもし血液が大量であれば、果物や薬草のような少量しか血液を作らない食べ物や飲物を用いて、水分を体から取り除く。そして、子宮から血を抜き取るために、腕の静脈で血を採り、乳首の下、腎臓や腰のあたりに吸い玉をつけて血を採り、足の皮膚を小さく何箇所も切開する。

散薬：ザクロ、イポキスティドス (hypocistis; ypoquistides)、アカシア、ロジン (松脂からテレピン油を蒸留した後の残留物) を取って、座薬を作るか、またはこれらをすべてオオバコの汁と混ぜて子宮の前と後ろの両方と、さらに子宮に接触させて塗っておく。ほかに血液の流出を止めるのに良い薬は次のようなものである：ホース・ヒール (horseheal; *Enule campane*) の大きい根——半ポンド6オンスほどと、清潔な水を $1\frac{1}{2}$ ガロン取って、1ポトル (=半ガロン) になるまで煮て、漉した後、半ポンドの白砂糖を加えてから再びしばらくの間煮て、さます。これをいつも飲ませると四日以内に出血は止まるだろう。ベルモンジー (Bermondsey) の小修道院長は、子宮の出血でほとんど瀕死状態だった女性にこの薬を教えた。その女性の胃の治療のため、彼は次のように処方した：エニシダの中ほどの樹皮をふたつかみ取り、3ポトルの清潔な水に入れて1ポトルになるまで煮つめる；これを漉して、半ポンドの白砂糖を加え、混ぜたものをまた煮て、これを飲ませる。しかし、もしこの出血が憔悴や、血液の荒々しさのためであれば、腕で瀉血をした後、血液をきれいにするために小さなルバーブ——2ドラクマ、その液体と煮た2ドラクマのセンナ、ルリヂサ、ウイキョウをそれぞれ6オンスを飲ませる。その後、ミン

ト、ケシ、オオバコの澄んだ上澄みの汁を飲ませれば [f.201r] 出血は止まるだろう。そしてその混合液に、ヒナギクの汁とインクを作るときに用いるオークの虫こぶの粉末を加えれば、その薬は血液の荒々しさにより壊された血管を完全なものにし、癒してくれる；そして、ゼニアオイ、ビート、スマレ、オオバコを、血液の荒々しさを抑えるためにスープに用いさせ、出血を止める薬としてスベリヒユ、レタス、ミント、オオバコ、スイバ、バラを用いる。また、ヒレハリソウ（ムラサキ科）、ヒナギクをそれぞれ1ドラクマ用いさせてもよい。処方：牛の胆汁、サンドラゴン（sandragon; sangdragon）、アルメニア産の赤色止血土、白サンゴ、赤サンゴ、マスチックの樹脂（コショウボクから採れる）をそれぞれ2スクループル、バラジャム2ドラクマ、白砂糖5ドラクマを挽いて一緒にする。そして、このねり薬をオオバコかピロウドモウズイカの汁とともに用いさせる；あるいはこの同じ粉末を取って、雨水に入れて煮て、膣に挿入する座薬を作って与える。これは壊された血管を癒してくれる。また、鉛白、アーモンド、ヨーロッパ産オオバコから取った汁をそれぞれ $1\frac{1}{2}$ オンスずつ取って、ガーゼをそれで湿らせ、座薬のようにそれを秘所に挿入する。また、ヨーロッパ産オオバコの汁、粉末にした亜麻仁、ドラゴンウォート（dragonwort; dragaunce: 竜血樹（dragon tree）のことか？）で作った膏薬を性器の上に貼ると、こうした病気に効く。また、焼いたヨーロッパ産オオバコの粉、焦がした石膏、アルメニア産赤色止血土、白檀、ザクロ、オークのドングリ、野生のザクロの花、あるいはこれらの代わりにオークの樹皮、ウォールウォート（wallwort; symphite: ニオイアラセイトウ（wallflower）のことか？）、南欧産スマック（ウルシ科）の粉末をそれぞれ2ドラクマ、ショウノウを1ドラクマ取って；一緒にして粉にし、その煎じ汁と卵の白身を混ぜ、それで膏薬を二枚作り、一枚を外陰部に、もう一枚を腎臓のあたりに貼る。そして、この病気は血液の分断によって起こるはずであるから、使い心地のよいねり薬を使わせる。そして特に女性が弱々しい顔色であれば、2ドラクマのアタナシア（Athanasia;

Athanasie: 調合薬。不死の意), バラの白砂糖半オンス, ディアシトニコ
ン (diacitonic)・シロップ, ディアコディオ (diacodion)・シロップ,
オークの虫こぶ粘液をそれぞれ12オンス, 白砂糖5ドラクマを, [f.201v]
赤鉄鉱を摺って入れたオオバコの汁とともに与え, 血液を濃くするような
食べ物, たとえばアーモンドミルク, アーモンドミルク入りの米, フルー
メンティ (アーモンドミルク, 牛乳, 砂糖, 香料, 乾燥果物, 卵などを入
れた小麦などの穀物の粥)を食べさせる。また, 山羊の乳を混ぜてもよい。
これは, 血液を濃くし, 壊された血管を癒し, 血液の流出を妨げるので,
この病気には大変良い。本当に効く薬物を作るためには, きれいな流水の
中に長い間置いてあったきれいな石を取って, これを火の中に置いて熱し
た後, アーモンドミルク, 良質の草で育てた山羊の乳, あるいは牛乳に入
れて冷やせば, 石はミルクの水分を吸収するだろう。肉付きがよく脂肪の
少ない汁気の多い羊肉か, 丸々とした雌鶏を食べさせる。人々が用いるこ
れらの食品の中で, 米と小麦は非常に優れて血液を濃くするものであり,
ヤマホウレンソウ (アカザ科) やビートの煮汁は血液を薄くする。バラ砂
糖とケシのシロップを食べさせるようにし, これらの薬を就寝時と起床時
の早い時間に用いさせなさい。乳香(ニューコウジュから採れるゴム樹脂),
マスチック, 白くなるまで焼いた鹿角精をどれも同じ分量だけ取って, 粉
にし, ミント, オオバコ, またはヨモギの汁を混ぜ, 豆粒ぐらいの大き
さにして, 一度に二, 三粒飲ませる。もし, 野兎の乳児か, 牛の乳児の胃が
手にはいれば, 粉になるまで焼いて先ほど述べた粉と混ぜて丸薬にすると
もっとよい。また, よく焼いた鹿角精を半ドラクマ, 卵殻を3ドラクマ取
って, この三つを一緒に粉にし, 煮汁か [f.202r] ソースか飲物に入れて
飲ませる; ロンドンのチーフサイド通りでこれについて良い結果が示され
た。

別の薬: 亜麻仁をたくさん取って, 羊か山羊の乳で煮て食べさせるか,
コロハがあればそれを食べさせればなおよい。ドラゴンウオートの根を5
ドラクマ, セロリの葉を3ドラクマ取って, これらを一緒に粉にして, 良

質のエールとともに飲めば、よくなるだろう；これは、この病気でほとんど瀕死であったバロンの妻について、サイレンスター (Cirencester; Surcester) で示されたことである。別の薬：ヨモギの汁を飲むか、膏薬にすると出血を止めるのによい。そしてもし病気がその女性が生まれつき虚弱であるためならば、十分な食べ物と飲物、バラ砂糖、ケンのシロップ、漉して、甘くするために少量の砂糖とともに煮たミントの汁をとらせるようにする。別の薬：香 (incense; encense), ミント, サンドラゴン, マスチック, スミレ, ゴム, セイヨウアカネをそれぞれ6ドラクマ取って；これらを一緒に粉にし、オオバコの汁、酢と混ぜて前と後ろ、すなわち陰部と腎臓部に貼る。そして、病気が血管の破れの結果であれば、先に述べた座薬とねり薬がよい。そして、出血を止めるのにきわめてよい薬が他にもあるが、それらもこの病気に効く。太ったウナギを取って、生きたまま炭の上に置き、女性をその上にまたがらせ、煙が秘所にあたるようにする。出血のある男性ならば、肛門にあたるようにする。そして、[f.202v] ロジンを用いて同じようにしてもよい。この病気にも出血にも有用な入浴：かなりの量の鉄を、水とその5分の1の量の強い酢と混ぜ、その中に黒プラム、セイヨウカリン、クリ、オークの木の樹皮、バラ、ヨモギ、ヒレハリソウ、トネリコの樹皮、ヒナギク、ヘラオオバコ、ミント、ドングリ、赤ワインで単独で煮たモレモニウム (molemonium; pentaphilon smoleynt: 吐剤となる植物) を入れて煮る。これは体の前部と後部に貼ると、それ自身の力を止める。しかし、これらすべてを水に入れて水が黒く濃くなるまで煮て、男性でも女性でも体を敷布にくるんで風呂に入れ、ローストした食べ物とヨモギとセイヨウノコギリソウ (キク科。止血剤となる) を入れた小麦の挽き割りパンを食べさせる。患者には、ローストしたヤマウズラ、蟬に入れてローストした雌鶏を食べさせ、バラ水とヨモギ水、あるいは雨水かマスチックを煮出した水、水で割ったワインを飲ませる。または、バラ水を18オンス、マスチックを2ドラクマ、カヤツリグサを1オンス1スクループル、ニクズク花、キュウリ、甘松香、シナモンを各1ド

ラクマ取る；粉状にし、それらをすべて一つのガラス壺に2オンスのバラ砂糖水とともに入れ；瓶詰めにして一時間ほど湯煎で煮る。この水は、飲んでみると、寒さによるあらゆる種類の心臓病、心臓発作、失神、寒さによる出血に効く。また、生きたコキジバトを捕まえ、羽をつけて生きたまま焼き、乳香を1オンスと同量のサンドラゴンを取り、それらを焼いて粉にし、土製の壺に入れる。そしてソースやスープ、飲物に入れて飲ませる。また、鹿角精と卵殻をそれぞれ10オンスずつ粉にし、治療するごとに、この粉を2ドラクマずつ、ヨモギの汁か [f.203r] あまり強くない穏やかなエール酒とともに飲ませると、出血が止まる。また、アルメニア産赤色止血土、ウイキョウの実をそれぞれ3ドラクマ、ショウガを1ドラクマ、美しい赤サンゴを1ドラクマを取って；粉にして与えると、出血が止まる。若い少女のために良い薬は次のようなものである：カヤツリグサ、シナモンを2ドラクマ、赤と白のサンゴを3ドラクマ、サンドラゴンとアルメニア産赤色止血土をそれぞれ2ドラクマ、アラビア産のゴム、漉し器で漉したミルテ（フトモモ科。芳香性植物）を1ドラクマ、黒と白のプラム、アカシア、カンゾウを半ドラクマ取り、これらを粉にして、ツルニチニチソウ（キョウチクトウ科）の汁とともに与える。または、ヨモギ、キジムシロ（septfoil; turmentill: パラ科）、ローストした骨、ピロウドモウズイカの粉を作ってもよい。イポキステイドス、アカシア、赤鉄鉱（あるいは血石）を1ドラクマ取って粉にし、バラの汁かバラ水と飲むか、アタナシアの粉3ドラクマをリンボクの実の汁とともに飲む。あるいは、アタナシアの新鮮な粉とリンボクの汁で作った陸座薬を秘所に入れてもよい；治癒できる状態のものなら、出血は止まる。また、良質のアルメニア産赤色止血土をヨモギの汁とともに取り、綿で座薬を作り、秘所に挿入する；これはきわめてよく効く。また、コメの穂とザクロ、すなわち野生のザクロの花を粉にし、ミチヤナギの汁を加えて陸座薬にしたものはよく効く。ほかには、キジムシロ、ピロウドモウズイカ、ローストした骨、ツルニチニチソウ、オニナベナ（マツムシソウ科）を混ぜ、「一番流れ」と人々の間で

は呼ばれているなめし汁 (tanners' juice; tanners wose: 皮なめしのための植物の液汁か?) の中でこれらをすべて煮る。煮上がったら、その中にへそのあたりまで浸かるようにして、できるだけ長い時間座らせる。これは、エセックスで試されたことである。

また、きれいな鮮紅色のサンゴの粉末を飲めば、メース (ニクズクの仮種被を乾燥したもの) やサフランと同じくすべての出血を止められる。さらに、焼いたものでも焼かないものでもいいが硫酸塩を1オンスと、赤鉄鉱を加えたヨモギの汁を7オンス取って、秘所に入れると、[f.203v] 出血は止まる。また、秘所のあたりで排出されものが燃えるように熱く感じられる場合、ヨーロッパ産オオバコから採ったオイル、マルメロの種、白いトラガカントゴムをそれぞれ1オンスずつ、人間の母乳を6オンス取って、秘所に入れると、この薬は熱によって起こる出血をすべて癒し、止めることができる。また別の貴重な薬は次のものである：ビャクダン、白いユウキ石 (spode; spodie)、南欧産スマック、ミルテを2ドラクマ、アカシアを3ドラクマ、イポキスティドスを3ドラクマ、ヨモギの汁、赤いバラの汁かバラ水をそれぞれ3メジャー、大麦の挽き割り粉を必要に応じて取る；これらすべてをまず最初に粉にして、膏薬を作る。この膏薬はやや柔らかくしなければいけない。また別の貴重な膏薬は次のものである：血液が胆汁質の場合、ヨモギの汁を1ポンド、バラ水を1メジャー、酢を半ドラクマ、赤サンゴ、ゴム、紫水晶の石、アルメニア産赤色止血土、ミルテ、殻斗、乳香をそれぞれ2ドラクマ、レムノス島の土を半ドラクマ取って、これらすべてを粉にし、二枚の膏薬を作る——一枚は体の前側のへその下に、もう一枚は腎臓の下あたりに貼る。いくらかのミョウバン (plume alum; alum de plume) を入れて煮た水を使った風呂は最もすばらしい効果を持つ。これは実験された療法である。そして、アビセンナは、両方の本の第二番目の章で、そうした指示を与えている。また、もし排泄物が本当に胆汁質である場合、黄胆汁を浄化するため、薬で次のように清めなければならない。黄色いプラムを1オンス、ルバーブを半オンス取っ

て、それらをつぶし、3オンスのプラム、1ドラクマのバラの汁で作ったシロップから成る薬を加え、カシア果の果肉を十分な量だけ一緒に混ぜる。そして、ルリヂサを煮出した3ドラクマの白い乳漿を飲ませる。三、四日こうして、その度ごとに次のものを与える。2オンスのバラ砂糖、1オンスの新しく作ったアタナシアの粉に [f.204r] 6オンスの白い (caffatin; cassatyne) 砂糖を加え、一緒にして前述の汁とともに飲ませる。そしてもしこれらの薬が出血を止めることがまったくなければ、熱をもっている乳首に採血箱をあてる。これらが役に立たなければ、治すことができるのは神のみであろう。

{第三章は子宮の窒息についてである。}

子宮の窒息は、女性の心臓や肺が子宮によって押されて、息をしているほかは死んだように見えるときに起こり、心臓病であることから、心臓発作と呼ぶ者もいる。というのは、毒気が子宮から発生し、背骨を通して頭の後部に至るかあるいは胸部を通して頭の前部に至るか、いずれかによって頭部まで上ると、女性の脳は心臓より大きいので、毒気は頭部に留まっておれず、心臓の中に進入していき、心臓を非常に苦しめ、自然の状態よりきつく締めつける。そしてこの病気においては、卒倒する病気であるかのように地面に倒れ、失神したかのように横になる。そしてこの痛みは二、三日は続く。この病気はさまざまな理由で起こる。たとえば、血液や、腐敗して有毒な子宮の体液を体内に有するために起こる。これらは、男性がペニスの隣にある睾丸から発生する精液を排出するのと同じ方法で、排出されるべきものである。そして、男性がその精液を体内に保持することでさまざまな病気にかかるのと同じように、女性もそうなるのである。しかし、女性がこの病気にかかったとき、あるいは彼女達が倒れたときには、へその下部から生じるひどい痛みと不快感があり、[f.204v] 苦痛のあまり頭が膝につくくらい体を曲げ、子宮のところを手をあてて強く握りしめ、他の人々に押しってもらうこともある。歯を食いしばり、その後、死んだよ

うに倒れる；苦痛があまりにひどいために、手や足を地面に打ちつけることもある。そして、この病気が前述した血液の保持から生じたものかどうかは、患者の言うことから決めるのが一番よい。というのは、しかるべく血液を排出したかどうかは患者が一番よく知っているからである。そしてもしこの病気が子宮内にある体液の腐敗から生じたものであれば、その体液には熱いものと冷たいものの二種類がある。もし体液が熱ければ、子宮腔がちくちく燃えるように感じ、体全体からまき散らされる熱い蒸気を放って、熱病のように体に不自然な熱を持つようになる。しかし、もし体液が冷たいと、もっと大きな圧迫感を子宮腔に覚え、背骨と胃を通して頭部に進入する冷たい水蒸気を放つ。そしてときどき左側の脾臓の付近に大きな痛みがある。しかしもしこの病気が前述の腐敗した精液から生じるのであれば、その場合の痛みは先に述べた症状は見せない。その場合も、子宮はそうした湿り気で満たされているようである。

これに対する治療：この病気にかかった女性を助けるためには、病気が第一の種類のものである場合は、血液に満たされた子宮を清めねばならない。第二、第三の種類である場合には、子宮内の腐敗した体液を排出しなければならない。それにもかかわらず、もし病気が第三の種類の場合は、男性と関係を持つことが役に立つ。しかし私の言うことを理解しなさい：その関係は合法的でなければならない。[f.205r] 夫との関係はよいが、そのほかのものはいけない；男性にとっても女性にとっても、好色な行いやその他、神の命に背く行為によって治るより、生きている間に大きな肉体の病を得る方がよいのは確かである。それで、血液の閉止についての章で私が前に述べたように、このようにして彼らは助けられるかもしれない。それにもかかわらず、女性がこの病気に襲われたときには、その女性が丈夫な体質の強健な女性でない限りは、血液を清めるための強い薬を受け取ってはならない。そしてこの病気に対しては、これに襲われた場合、ゲッケイジュの葉から作ったオイルとバラオイルを同量混ぜて、それを腕や手、足にすり込み、暖めた瀉血用のグラスを生殖器にあてる。そして患者に非

常に強い悪臭を放つものを嗅がせる。たとえば焼いたフェルトや犬の毛、山羊の毛、火で燃やした後で火を消した馬の骨、鹿角精、古靴、燃やした羽、油で湿らせ火をつけて消した蠟燭の芯、毛のぼろ切れ、燃えて煙を出す炭などである。患者にこの煙を嗅がせるか、カストリウム (castory) の粉、酢に溶かした楓子香、同量の土硫黄、パセリ、ホッグス・フェネル (hog's fennel; lete cast) を取って、それに20分の1オンスのストーン・パセリ (stone parsley; petrolion) を加え、これらを炭の上に置いて、その煙が患者の鼻と口にはいるようにする。その代わりに、ふつうのオイル2ポンド、ローズマリーの花と葉をそれぞれ1ドラクマ、イヌハッカ、カラミント、ヨーロッパ産オオバコ、タイム、オレガノ、ヤナギハッカ、キダチハッカ、ゲッケイジュの葉、シダレイトスギの削り屑を1ドラクマ、チョウジ、ショウブ、カヤツリグサ、メースを2ドラクマ、ミルラを1ドラクマ、甘い香りのする白ワインを半ポンド取って、調理させる。すなわちワインがなくなるまで煮て、それを漉す等々である。そして、[f.205v]へそこから秘所にかけて軟膏やオイルのような香りのよいものをすり込み、心地よい、甘い香りのするもので燻蒸をし、心臓から悪い物を引き下ろすのである。そしてこれによいものは、フランス・マスカット、ジャコウ、カシア桂皮、竜涎香、乳香、安息香 (ソゴウコウジュ) の樹脂、ショウブ、沈香樹、バルサムや芳香性のものである。そしてまた、発作の時には足と腿を一緒に縛り、酢か塩で足の裏をよくこすることである。そして、甘い香りのするもので、煙や香りが鼻に達しないようにして燻蒸する。しかし、阿魏 (asafetida; azafetida: イラン、アフガニスタンに産するセリ科の薬用植物。強い臭気を持つ痙攣性の鎮静剤としてそのゴム樹脂を使う) や先ほど私が述べた悪臭のするものをかがせなさい。そして、カストリウム、コショウ、ユーフォルビア (トウダイグサ科)、ピレトリウムの粉をそれぞれ半スクールプルずつ鼻に入れ、くしゃみをさせる。あるいは、発作時に1ドラクマの薬効のあるシロップを与え、子宮の入り口に甘い香りのする軟膏を塗る。発作の起きたときに目覚めさせ話をさせるためのよい燻蒸

法は、次のものである：ホッグス・フェネルを7ドラクマ、楓子香を12ドラクマ、コストマリーを同量、コショウを11グレイン、粉末状のバルサムを少し取って；それらを粉にし、ただし楓子香は酢に溶かしておいて、炭の上に置き、煙を鼻にあてる。これらすべての薬は、発作で倒れたときに与えるべきである。しかし、前に述べたように、清めを起こさせるためにその前と後に薬を与えてもよい。

そしてもし冷たい体液が病気を引き起こしているなら、刺激性の薬草で立てた風呂に入れなさい。そして風呂から出たときに一口の [f.206r] クミンやショウガを煮出したワインを与える。しかしもし病気が腐敗した精液のためならば、何度かふくらはぎの下のところの前後部両方を切開しなさい。そして、踝の下と足の親指のところの静脈でも、瀉血を行いなさい。ロヴァージュ (lovage; lovache: セリ科植物)、ニガヨモギ、ヤナギハッカ、煤を真鍮の乳鉢で一緒にし、その後水に入れて煮て、その液体を体の前部、すなわち胃の入り口のあたりから秘所にかけて塗り、背中にも脇にもかなりの量を塗る。何も加えないで同じ方法で煮て膏薬にした煤も効果がある。また、ニガヨモギは、それ以上の効果ではないが、それ一つだけで使っても効きめがある。岩塩、硝石を取って酢や塩水と混ぜ、木綿のガーゼをこれで濡らして秘所に入れても、悪い精液から患者を救うことができる。そして、男性・女性両方の体内で精液を増やす食物に対して身を守らねばならない。そうした食物は、卵黄、新鮮な肉、特に豚肉、雄鳥、スズメ、ヤマウズラ、ウズラ、雄豚の脳味噌、主として雄豚、雄牛、オオカミのような動物の睾丸、動物の骨髄、脂肪、脳味噌；セイヨウナシ、ナツメヤシ、アーモンド、イチジク、ナッツ類、パースニップ (セリ科)、蜂蜜や豆類から取った油で揚げたカブ；強く甘いこくのあるワイン、赤でも白でも強く甘い良質のワインである。これらの食べ物と、長い休息と睡眠、入浴を好むこともそうである。また、長い時間風呂に入っているはいけなしいし、精液を枯渇させ破壊するようなもの、精進させ目覚めさせておくようなものを用いさせる。たとえばヤナギハッカ、ヘンルーダ、クミンはそ

の熱によって精液を破壊する。そして、他のもの、たとえば [f.206v] セイヨウオトギリ (St.-John's-wort; agnus castus: 聖ジョンの祭の前夜に魔除や薬草としてこの草を摘むことから)、スイレン、それと類似のものなどのように冷性の薬草は精液を少なくする。また、野生のタイムから採ったオイル、ジャコウのオイルそれぞれ3ドラクマを一緒に混ぜたもので産婆が手を濡らし、それから秘所の入り口にそれを塗ると、子宮がむずがゆくなる。そこで、芳香性の物質とともに中の物を出すためには、ジャコウオイルを取って次のようにする：非常に甘く良質でおあつらえむきのオイルを2ガロン取って、それにペニロイアルハッカ、ローズマリー、コストマリー、カミルレ、ラヴェンダー、バルサム、クルマバソウ、ヤナギハッカ、キダチハッカ、シダレイトスギの削り屑をそれぞれ1ポンド、カラミント、ナツシロギク (feverfew; fetherfew: 解熱効果がある)、ウイキョウ、ニガヨモギ、セージ、ヘンルーダ、オレガノ、サザンウッド (southernwood; sothernewode: ニガヨモギの一種)、ジョンウオート (Johnwort; John worte) と呼ばれる聖ジョンのヨモギを12ドラクマずつ加え；水でまず洗い、マルムジー・ワインに入れて煮て、挽いて粉にし、先に述べたオイルに入れた後、それに1クオートのワインを加え、薬草をマルムジー・ワイン入りオイルに九日間か、できればもっと漬けて腐らせる。その後すぐ、これらすべての材料を二重ガラスの容器に入れて火にかけて煮て、ほとんどなくなるまでよく煮る；それから、きれいにするために、良質で新しく目の粗い厚地の布にこれを通す。漉されると次のような粉を作る：キダチアロエ、メース、バルサムの実、バルサムの木、芳香性のショウブ、甘松香、カヤツリグサ、マスチック、サフラン、チョウジ、ミルラ、カヤツリグサ、シダレイトスギの削り屑をそれぞれ2オンス、芳香性のショウブ、ゴム、カラミント、良質のジャコウを $2\frac{1}{2}$ ドラクマ、ショウノウを6ドラクマ、竜涎香を2スクールプル取る；ショウノウとジャコウを砕き、それを2ドラクマのオイルと混ぜるが、次の三つ、すなわちショウノウとジャコウ、ゴム以外の残りの物はすべて、香料がガラス容器

に入れたそのオイルの中で混ぜられ煮られるまで、オイルの中に入れてはいけない。[f.207r] 煎じた汁が大体冷たくなったら、ゴムの中に入れる；そして非常に冷たくなったら、ショウノウとジャコウ、竜涎香を入れ、蓋をする。たとえ澱がたまっても、質がより悪くならないからである。このオイルは、発生するあらゆる種類の病気によく効き、特に冷え、および子宮の窒息によい。もし、これを内部に塗るために用いれば、あるいはそれで湿らせた木綿を使えば、子宮を刺激し、快適にさせる。また、このオイルは胃の冷えの症状の場合、塗油に用いることができ、自然の粘液の結果である三日熱、四日熱、毎日熱にも使われた。患者は、発作時の一時間前にこれを塗ればよかった。背骨に沿ってよくオイルをすり込むと；悪寒による体の震えを去らせ、それ以上の効果があった；患者が、発作時の二時間前に良質のおいしいマルムジー・ワイン4オンスとともにこれを1オンス飲めば、発作が起こることはないだろう。首筋にこれを塗っておけば、冷えによる麻痺、風邪カタルによい。また、このオイルは、塗っておけば、冷えの結果起こったあらゆる種類の痛みを取り除く。あらゆる種類の、冷えによる痛風、冷えによる水腫や同種のものによい。また、アイリスの根を子宮の中に入れたり、それで燻蒸したりすると、女性は子供を流してしまう。というのは、アイリスの根は熱く乾いた性質をもっており、開き、熱し、消滅させ、消耗させる力を持っているからである。女性が虚弱で、子供が出てこないときは、子供の母親も死ぬよりは子供を殺す方がよい。そしてまたその薬は死んだ胎児を不思議なほどうまく出してくれ、後産も、月経も出してくれる。下からの燻蒸か [f.207v] その他では、アイリスの根を半ポンドとサビナビヤクシン半オンスを取り、白ワインに入れて煮て、カキドウシ（シソ科）の粉を半オンス、蜂蜜1オンスを加える；煮出した液体1メジャーと1ドラクマの雄牛の胆汁を取って、墮座薬を作る。2ドラクマのミルラで作った丸薬を次のような液体とともに与える。すなわち、ドクゼリモドキ、クルマバソウ、パセリの種、バルサム、ヒメウイキョウの実、ディル、アイリス、ヨモギをそれぞれ1オンスずつと白ワイン3ポ

ンドを加える。

それらを煮て、キダチハッカ、ヤナギハッカ、クルマバソウ、クレタ島産オレガノを同量ずつ細かく刻んで、その液体を4ドラクマ入れて薄める。